高専に任せろ！2018

第1部　異能を輩出 ㊦

競艇挑戦　究める心

進路　広がる分野

整備や調整　似通う感覚

今年デビューした粟田選手。エンジンやプロペラを整備する

意外な分野で活躍する高専出身者（中退含む）

	名前	分野	出身高専
スポーツ	鈴木　夕湖	カーリング（平昌五輪銅メダル）	旭川高専
	衛藤　　昂	走り高跳び（リオ五輪出場）	鈴鹿高専
	菅本　信哉	野　球（東大野球部）	香川高専
ゲーム・ソフト	田尻　　智	ゲームクリエーター（ポケモンの生みの親）	東京高専
	斉藤　秀夫	ソフトウエア開発者（秀丸エディタなど開発）	福井高専
文化・芸能	北村　一輝	俳　優	弓削商船
	国村　　隼	俳　優	大阪府立大学高専
	安部龍太郎	小説家（「等伯」で直木賞受賞）	久留米高専
	N　S　P	フォークバンド（「夕暮れ時はさびしそう」がヒット）	一関高専
政治	佐々木りえ	大阪市議会議員（グラビアアイドルから政界へ）	松江高専

モーターボートレースされるのか。準学士（高専卒の称号）ボートレーサーの勝算やいかに。

選手（23）。阿南工業高等専門学校（徳島県阿南市）を卒業し、競艇の世界に飛び込んだ。建築を修めた粟田さんがなぜ、陸を離れて海の世界を選んだのか。高専で学んだ腕前は新たな世界でいかという当たり前のことに改めて気づいた。

そして4年生の夏休み。粟田さんはたまたま知人に誘われて競艇を見に行き、衝撃を受ける。

「ターンの迫力、エンジンの音とガソリンの匂い。こんな格好いいものを生まれて初めて見ました」。競艇について調べれば調べるほど「自分の求めていたモノに近い」と思うようになる。実力が左右する勝負の世界にも引き付けられた。

高専退学も決意したが周囲に説得され、いったん休学して養成所の試験に挑むことにした。試験は年2回。毎回1500人前後が受験し、合格者は僅か約50人。元甲子園球児など全国レベルのアスリートも狭き門をこじ開けようとする。粟田さんは4回目の受験で滑り込むことができた。

高専を卒業して養成所へ。1年間が経過したとき、約50人いた同期は26人になっていた。

レースで使用するボートやエンジンは個人の所有ではない。各競艇場に用意されていて、開催初日の前日に抽選で各選手に割り当てられる。

そこからが各選手の腕の見せどころだ。満潮干潮などによる潮の流れ、海水温、水圧などいろいろな要素が絡み合い、スピードの出方が変わる。新人の粟田さんにもその感覚は肌で分かる。

選手はレース環境を分析しながら、エンジンの整備とプロペラの微調整を行う。競艇場の整備室にはいろいろな工具があり、「ガソリンや油の匂いが漂って高専の教室に似ている」（粟田さん）。

機械いじりなら高専で経験している。昔取った杵柄（きねづか）かと思ったが、現実は容易ではない。「微妙な変化は分かりますが、どう修正していくかは、まだ経験不足です」と素直に語る。

1分で約6800回転するプロペラ。軸に近い方は分厚く、先端は薄くなる。木と樹脂の2種類のハンマーでプロペラをたたき、微調整を繰り返す日々だ。もっとも、原理原則は高専でたたき込まれているから、物覚えは早いに違いない。

高専生にはこうエールを送る。「妥協せずに自分のやりたいことを見つけてほしい。そのための努力は必要だと思います」

取材を終えて別れ際に握手をしたら右手の人さし指の手元の手のひらに小豆大ほどのマメがあるのが分かった。「右手でハンドルを操縦するので」と笑顔に。マメの硬さが勝利をたぐり寄せるに違いない。目指すは競艇界の頂点だ。

高専出身者の活躍の場は何も産業界だけに限らない。スポーツから文化芸能まで幅広い分野に進出しているが、高専独自の教育環境によるところも大きいようだ。

高専は少人数教育で教授陣の目も行き届きやすい。教授は学生の自主性を重んじながらも、5年の在学期間を通じ、将来の相談に親身に乗る。良き教育者が良き高専生を輩出する風土の中で、高専生は自身のキャリアを模索し、それぞれの能力を引き出している。

今年3月に開かれたボートレーサー養成所の「修了記念競走」。選手紹介のパンフレットに、粟田さんの教官はこんなコメントを寄せた。「研究熱心であった。まじめな性格で考えすぎてしまうタイプ（中略）時には強引さも大事だぞ」。今の高専生像を言い表しているようでもある。

粟田さんにこんな質問をぶつけてみた。「高専で学んだことは競艇で役立ちそうですか」

「流体力学や水理学は多少なりともいかせるだろうと思います。プロペラについては研究してみたいです。（高専にいたからこそ）人とは違う考え方ができるかもしれません」。競艇界に新たなイノベーションが起きそうな予感がする。

さて、5月デビュー後の戦績はどうか。勝負の世界は厳しく、5着、6着が目立つ。ほろ苦い戦いが続いているが、粟田さんは快く取材に応じてくれた。「自分が決めた人生だから」と。そして

（編集委員　田中陽）

許諾番号30063803 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。
掲載日　2018年07月05日　日経産業新聞　003ページ
(C)日本経済新聞社　無断複製転載を禁じます。